第２回 苫小牧市総合計画第７次基本計画策定市民検討委員会

議事録要旨

【開催日】　令和４年７月２１日（木）１４時００分～１５時３０分

【場　所】　苫小牧市役所　本庁舎９階　議会大会議室

【出席者】　石森会長、片石副会長、大岩委員、谷岡委員、西川委員、八田委員、古川委員、星野委員、本間委員、村田委員、宮嶋委員

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 議事内容 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

１　開会

総合計画についておさらい

●事務局より説明

苫小牧市総合計画は基本構想、基本計画、実施計画の３層で構成されている。基本構想は理想の都市を定め、施策の方向性を明らかにするもの。基本計画は基本構想で定めた理想の都市を実現するためのまちづくりの指針や各施策をまとめたもの。実施計画は基本計画に基づき実施する事業を具体的にまとめたものとなっている。

現行の基本構想では本市が目指す理想の都市を「人間環境都市」としている。

人間環境都市を実現するために５つのまちづくりの目標を設定しており、それぞれ①共に支え合い健やかに暮らすまち、②明日を拓く力みなぎる産業のまち、③学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち、④自然と環境にやさしいまち、⑤安全・安心で快適に暮らすまち、となっている。

市政の推進は、自治体運営に関する取組を基本とし、５つのまちづくりの目標に関する取組を行い、人間環境都市の実現を目指す。

計画の期間について、基本構想は平成３０年度から令和９年度までの１０年間、現行の第６次基本計画は平成３０年度から令和４年度までの５年間を計画期間と定めている。

今回、基本構想は変更しないこととしており、現行の第６次計画に続く第７次基本計画を策定することとなる。

市内部に検討委員会や部会を立ち上げ、基本計画の策定作業を行っており、この市

民検討委員会ででた意見は、適宜フィードバックし、新たな計画に反映させていく。

２　議題

（1）質問に対する回答

●事務局より説明

コンパクトシティとは一般的に（1）高密度で近接した開発形態、（2）公共交通機関でつながった市街地、（3）地域サービスや職場までの移動の容易さ、という特徴を有した都市構造を示すと考えられている。

コンパクトシティには、中心に集合させるもののほか、多極的ネットワーク型や串と団子型など、複数の類型があると考えられている。

コンパクトシティの例として、前回話がでた、青森市のケースを簡単に紹介する。

青森市では人口減少による中心部の空洞化や、豪雪による除雪費用の増加などの課題に対応するため、中心部に集合させる形のコンパクトシティに取り組んだ。

中心部に複合商業施設をオープンさせ、図書館なども中心部に移設。中心市街地に人を集め、郊外の開発抑制を行った。

本市におけるコンパクトシティの考え方について、第２次都市計画マスタープランを策定・運用しているが、都市計画に関する基本的な方針をこの計画で定めている。

現行のマスタープランでは、複数のエリアに分け、エリアごとの拠点となる場所に生活機能等を集積させ、それぞれのエリア拠点を主要道路や公共交通機関で結ぶという都市計画が記載してある。

東西に長いという地理的特性のため「串と団子型」に近い考え方になる。

このマスタープランを補完する計画として、現在、苫小牧市立地適正化計画の策定作業を行っている。この計画はマスタープランをより具体的にした内容となっており、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考えで、まちづくりの形成を進め、都市機能等の緩やかな誘導を促すものとなっている。

次に人口推計について、社人研が推計した資料を基に、平成２８年度に苫小牧市第１期人口ビジョン及び総合戦略を策定した。これをもとに総合戦略に定める施策を通して人口減少の抑制を行い、その結果想定される人口をシミュレーションし、将来展望としてまとめている。

令和２２年（２０４０年）の将来展望を「約１５万人を維持」としており、この第１期人口ビジョンをもとに、第６次基本計画では目標時期である令和４年度の人口想

定を約１７万人と設定している。

第２期人口ビジョンは第１期人口ビジョンと比べ人口推計値が若干減少しているものの、令和２２年（２０４０年）の将来展望を「約１５万人を維持」としている。

これをもとに今回の第７次基本計画では、目標時期である令和９年度の人口想定を、約１６万人台後半と設定した。

第６次基本計画に係る事業の検証について、計画に紐づく事業２５５件について、達成度をＡ（達成）～Ｄ（大きく下回る）の４段階で評価し、事業継続についてＡ（さらに発展させる）～Ｆ（予定通り終了する）の６段階で判断した。

達成度については全体の９割以上がＡ、Ｂと評価しており、Ｃ、Ｄとなっている合計１６件のうち、半分以上は新型コロナウイルス感染症の影響で事業を中止、縮小したもの。

事業判断については、Ａが９件、Ｂが７９件、Ｃが１５９件、Ｄが１件、Ｅが３件、Ｆが４件となっている。

前回の委員会後にでた質問について、「第６次基本計画から５年が経過し、その間の現況と課題はどのように変化したか。」について、令和３年度に実施した男女平等参画の市民意識調査結果を平成 27 年度調査結果と比較し、男女平等参画の浸透が進んでいると考える。性別による役割分担意識も改善されつつある一方で、企業内などにおいて固定的役割分担意識が根強く残っている結果となり、今後はこの部分について、意識を変えていく必要があると考えている。

「審議会の女性委員の比率、委員の重複」について、女性登用率は令和４年が 28.9%、令和３年が 29.4%、令和２年が 28.8%、平成 31 年が 27.1%、平成 30 年が 26.9%となっている。委員の重複については、２つ重複している方が２３名、３つ重複している方が１０名、４つ重複している方が１名、５つ重複している方が３名となっている。

「女性市議会議員」について、令和３年１２月３１日時点で本市は全道６２位と女性議員の数が少ないことを認識している。昨年度は男女平等参画を推進するイベントで啓発を行っており、今後も女性議員を増やすための啓発活動を行っていきたい。

「男女平等参画都市宣言を行った都市として続けていること、特徴」について、平成２９年度に日本女性会議を実施し、平成３０年度からは苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議を実施してきた。

「パートナーシップ制度」について、パートナーシップ制度導入の部分については、運営方針０３男女平等参画の推進の主な取組に記載することを考えている。

「総合計画と他の個別計画の期間の一致」について、本市では多くの個別計画が運用され、計画期間や見直しのタイミングは様々だが、全ての個別計画は総合計画に示す方向性に沿った形で策定され、整合性はとれている。新たな総合計画の策定により整合性が取れなくなった場合は、速やかに個別計画の見直しを行い、整合性を確保していくこととなる。

「地域福祉計画の調整」について、今回の地域福祉計画は、総合計画と整合性が保たれるよう作成されており、調整の必要はないと考えている。現在作成中の第７次基本計画と整合性が保たれない場合は、速やかに地域福祉計画の調整を行うこととなる。

---　質疑　---

●Ａ委員

６次基本計画に関わる事業の検証について、どのようなメンバー・形で達成度を評価したのか

●事務局

検証については、実際に事業を担当している各課において実施した。

●Ａ委員

各課に任せて実施していると、検証が甘くなるという感じもするが、第三者が入っての評価はしてないのか。

●事務局

市議会に資料を提出するなど行っている。この委員会で見てもらうことも第三者の目を入れることになると考えている。

●会長

コンパクトシティの考え方について、密集させるエリアをある程度設けて、その連携を取っていくという考えだと思うが、行政コストなどを集約していくことが基本となるのか。

●事務局

人口減少社会において、インフラを広げればそれだけ行政コスト等はかかってくる。行政コストの抑制や、市民生活の利便性の維持・向上という面でもコンパクトシティの必要性はあり、現在、立地適正化計画を策定中。

●会長

インフラ施設の効果的な整備についても、基本計画に記載されるのか。

●事務局

総合計画は幅広い計画なので、コンパクトシティの考え方も当然計画に入ってくる。

（2）意見交換

●Ｂ委員

事前質問への回答の中で、女性市議会議員の数が少なく、これから増やしていきたいとなっているが、イベント等を通して増やしていきたいという考え方と思われる。

スポーツ関係でも、女性の数を増やそうという働き方をしているが、知識や経験を持った方がなかなかいない。

議員については、各会派の兼ね合いとか、立候補する人に関して、企業の推薦などの形にもなると思うが、これを広めるための具体的な考えは。

●事務局

非常に難しい問題であり、具体的な策は今のところ持ち合わせていない。まずは、女性が参加していくという機運を高めなければいけないと考えており、そのために何ができるかを考えていく必要があると考えている。女性議員が少ないというのは確かなので、どのように改善していくかは、継続して考えていきたい。

●会長

職員採用など、行政としてはどうなのか。

●事務局

市職員の採用は、現在、半分ぐらいが女性となっている。また、審議会や検討会議でも、できるだけ女性の委員に入ってもらえるように実施している。現在は、各委員会で女性委員の割合３０％以上という目標を立てているが、もう少しで達成するというところ。しかし、男女の比率というのはおおよそ半分半分なので、本来であれば、委員会も５０％女性になって欲しいと思っている。

●Ｃ委員

観光協会で基本計画について、いろいろと話したが、具体的な意見を今日用意できなかった。質問として、現行の計画と大きく変わる形の意見を出してもいいのか。現状に即した取組などを具体的にここに盛り込みたいというような話が出ている。

●事務局

いただいた意見については、市内部の検討委員会や部会などで検討することになる。

●Ｃ委員

現状の観光協会案のようなものをなるべく早く提出したい。

●事務局

補足すると、細かいところをどこまで計画に組み込むのかというところがある。総合計画は市の一番大きな計画であり、その下に各個別計画がぶら下がっている。個別計画に組み込む方がより実効性が高まるという判断になれば、そちらに記載するという形になっていく。大きな方針でいえば、総合計画にはエッセンスを取り込んで記載していくということになるが、意見を聞いた上で判断したい。

●D委員

若者の代表として発言したい。高校生時代に公共交通機関は多く利用していた。例えばバスで学生の臨時便であれば利用客が多いが、平日の昼間などは利用客が少なく運行している意味があるのかと疑問に思った。

バスの利用客が減っていると思っているが、減っている理由として、便数が少ないというのと、値上がりがあると思う。個人的に札幌のバスでいう環状線のような、料金が一定で同一区間を周回する便を増やし、値段も下げれば利用客が増えると思う。

ＪＲについては、苫小牧の東地区は結構人口が多く、沼ノ端駅の利用者が多くなっている。しかし、利用客の増加に対応できておらず、駐輪場から自転車があふれ歩行が困難な状況ということもあり、改善が必要と思う。また、ＪＲの対応になると思うが、沼ノ端駅構内に入る道が狭く大変混雑している。駅周辺の環境だけでなく、駅舎の改善も必要だと思う。

●会長

交通の問題は、この計画策定に向けて非常に大きなポイントになると思う。東西に長いエリアをどうリンクさせて、まちをつくっていくかを考えると、そういうものを具体的に積み重ねる必要があると思う。

●E委員

社会福祉協議会でいろいろな意見を募集し、それを意見ということで発言する。

検討委員会に出された第１回目、第２回目の資料において、異議などはない。ただ、主要施策や事業、あるいは考え方について意見を述べたい。

共に支え合い、健やかに暮らすまちの中の、健康な暮らしの実現において、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを実現するための医療、介護の連携センターについては、この計画に記載されるべき。

病院へ通う足の確保について、公共交通の充実の中で考えると費用対効果の面で難しいので、医療体制の整備・充実の中で考える必要もある。

自治体運営の市民自治、男女平等参画の推進といった全体に関わる項目がある。社会福祉協議会として、生活支援コーディネーター事業を行っているが、そのような市民参加や市民協働を、医療体制の充実、地域福祉の増進にもある程度主軸に置くべき。

地域福祉の増進の雪かきボランティアについて、町内会除雪隊などその後いろいろと展開されているものもある。

第６次計画の５９ページの評価指標の中に、市民後見人を評価指標としているものがある。市民後見人について、今後、法定後見だけではなく、任意後見、死後事務等も検討していく必要があるのではないか。

安全・安心で快適に暮らすまちの防災体制の充実の中で、災害ボランティアの活動について、自主防災組織や町内会、関係機関との連携なども強調すべき。

市民意識調査結果報告書の属性の中でも、とりわけ居住地域について、同じ地域の中でも町別の差を検証してほしい。

女性議員を増やすという意見の参考として、国でも政治分野の女性を増やしたいということで、数年前に法律をつくり、各政党に努力義務を課している。ただし罰則はなく強制力がない。政党や各種団体で目を向けられていくことが、少しずつ進んでいくことになると思う。

●会長

様々な分野の意見があったが、事務局からコメントは。

●事務局

いただいた意見は内部で検討させていただく。

●Ｆ委員

苫小牧市の町内会連合会は、８２町内会を７地区に分けて、４年前よりブロック会議を行っている。現在は、コロナによりあまり情報の交換はできていないが、ブロック会議を利用して情報の交換をしている。地域によっては、住民が高齢化で行事に参加ができなくなった場合、協力し合って、祭りや盆踊りをこのブロック会議で一緒に行えるよう、これからも努力をしていきたい。

●Ｇ委員

交通に関して、これからもっとよくなっていけばと思っている。いつまでも車の運転ができるわけではなく、現に危険な運転をしている高齢ドライバーに出会うことも多々ある。この間も、高齢者が運転する車が逆走しているのを見たが、もっと安心・安全な交通機関を利用できるまちになればいいなと思う。

将来的に両親を市内に迎えたいと考えているが、移住の面から考えても、公共交通の充実は必要だと思う。

苫小牧に移住して１９年ぐらい経つが、雑草が茂っていたり、ごみのポイ捨てがあったり、まちのところどころに汚い部分がある。最近、保護司になり、犯罪の発生も踏まえて、照らし合わせてみると、汚いまちは犯罪の発生率が高い傾向があると思う。

活動している人を見て、努力しているのはわかっているが、より雑草を少なく、ごみの少ないまちになれば、犯罪も減り、安心して暮らせるまちになり、人口も増えると思う。また、市外に出た人も戻ってきたいまちになると思う。

●H委員

コンパクトシティとゼロカーボンについての考えをまとめたものと大学の活用についての意見を事務局に送った。その部分を説明する。

基本的にコンパクトシティ化というのは必要だと思う。このまま人口減少が進むと、空き家や廃墟ビルが増える。都市の大きなエリアは変わらず、空洞化が進み、税収は人口減に伴って減っていく。一方で、広範囲の行政サービスがこれまでどおり行えるとは限らず、それを維持するためには、やはり集約的発想というのが必要と思う。

静岡に住んでいたことがあるが、郊外に大型商業施設のあった浜松より、中心部に集約されていた静岡の方が快適だと感じていた。そういう意味で、集積化というのは非常に重要だと体験した。

苫小牧を考えた場合、このまま人口減が進み、手をつけないならば、行政サービスを維持できないような状態に多分なっていくと思う。

国交省が言うコンパクトシティ・プラス・ネットワークの言葉に抵抗がある。コンパクトシティというと、まちが縮小するようなイメージを持ってしまうが、まちが縮小するのではなく機能を維持するということがわかりずらい。縮小・集約するということは、集約化するために移住を求める、強制移住のようなイメージが生まれてくる恐れがあるので注意してもらいたい。市が強制的に何かするのではなく、まちを維持する、残していく、サステナブルなまちづくりという発想に変えたほうがいいと思う。

ゼロカーボン宣言とコンパクトシティは全く無縁ではないと思う。この２つの大きな難題を組み合わせて、改善策はつくれると思う。市の東部エリアを、企業の力を借りながら、ゼロカーボンの先導的なエリアにしたらいい。

苫小牧市立地適正化計画を策定中となっているが、これはある意味、都市機能誘導区域等から居住誘導区域の線引きというのを実際検討してますよという意味だと思う。ということは、実際、コンパクトシティ化をどこまでかはともかくとして、進めているということだと思う。それならば、市民に対し、まちづくりの方向性を説明し、合意形成を図っていく必要がある。

なぜならば、居住区を誘導するために何らかのインセンティブが必要となり、そこにかかる費用を整理する必要がある。それは、市民が知る必要があると思う。

一方で、この居住エリア外に住みたい、あるいは住宅開発したいというときに、拒否はできない。その動きを抑制するための規制が必要で、それはどこまでできるのかということを考える必要がある。

公共サービスの在り方とその料金について、インフラの維持に費用がかかるので、

今までのような一律ではなくすることも考えていい。不便なエリアとそうじゃないエリアに料金の差がついてもいいと思う。シビルミニマムとして、市はどこまで公共インフラを整備し、サービスを提供するかを整理し、市民にその合意を取っていく必要が出てくると思う。

マスタープランを補完する計画と書いてあるが、これは補完ではなくその上位にくるぐらいのイメージだと思う。都市計画マスタープランは、市全域を８つのエリアに分け、それぞれに対して開発計画を打ち出している。すべてのエリアで全部居住区域ないし都市機能を維持するような区域になるとは限らず、計画から外れた場合の整合性をどう取るかが難しいと感じる。

このコンパクトシティの考え方は非常に抽象的で、それを市民に投げかけても自分事としてなかなか考えづらく、議論が深まらない。分かりやすいシンボリックな例えで市民の興味を喚起するなど行えばいいと感じる。

カーボンニュートラルとの関係で、東部で企業の力を使い先導的にゼロを目指す。西部では大学もあるので、文化的、教育的なものを特徴にするような、エリアの特徴づけをして、コンパクトシティ化を進めていくというのが面白いと感じる。

結節点というか、人の流れをスムーズにするための公共交通機関は非常に重要で、バスないしはオンデマンド交通、タクシー、そういうものを組み合わせて、エリア間の流通を快適にできればいいと思う。

大手の化学繊維会社の役員と話したとき、車は将来、移動ではなくて、中で懇談する場になると考えていた。だから、車内の快適さを重視していくと発想を切り替え、商品開発をしてると話を聞き、先を見た面白い考え方だなと思った。そうなると、地域を結ぶ交通手段というのは、単に移動ではなく、その中で、新しいコミュニティーが生まれる可能性もある。移動が楽しくて、つい循環バスを二、三周回ってしまうような交通機関が生まれると楽しいと思う。

●事務局

各政策の実施について、市としては様々な意見を踏まえて素案をつくり、お示しして、市議会や審議会、住民説明会、パブリックコメントなどで市民の意見を聞き、情報公開した上で合意形成を図っていくという流れになっている。市民にプラスになるもの、マイナスになるものがあり、その度合いに合わせて合意形成の図り方も変わってくるが、必ず合意形成を図る方法は取っている。

●会長

苫小牧市立地適正化計画は策定中ということでよろしいか。

●事務局

はい。現在、立地適正化計画は策定中であり、具体的な方法は事務局で把握してい

ないが、何かしらの方法で市民の皆様から意見をいただきながら進めていくということになっている。

●会長

これはこの委員会にも情報はもらえるか。

●事務局

今回の話を一度持ち帰り、担当から出せる情報があれば、お伝えしたい。

●会長

居住地を強制されるなどの誤解を与えないように慎重に進めていかないといけない。

●Ｉ委員

苫小牧市の今後を考えていく中で、これからはＩＣＴ技術を積極的に導入していくような方策が必要と考える。先ほどからある交通の問題にしても、ＩＣＴの基盤を整備していくことは、いろいろな可能性をつくっていく上で非常に重要。教育機関の連携事業で、例えばＩＣＴ教育を市内全域で進めていくとか、そのようなことも可能だし、ＩＴベンチャーの企業支援なども含めながら、重点プロジェクトの中にある活気あふれる産業のまちや、未来につながるまちづくりということでも、先駆けてやっていくべき。

幸い、工場も多くて、そういった関係の技術者も多いと思うので、そういう下地はできていると思う。これら以外にも防災など、いろいろなことを考えていく上で、ＩＣＴの基盤整備を進めていくことは非常に重要で、雇用の創出にも繋がると考える。

現在の基本計画を見ると、ＩＣＴに関するところは行政改革の部分で１項目出ているだけ。点ではなく、面として広げていく必要があると思う。

仕方がないことなのかもしれないが、２３ページの基本計画の重点プロジェクトとどの施策が対応してるかを見ると、満遍なく基本施策に関わっているような感じになっている。これだと、本当に何が重点なのかよく分からない。重点プロジェクトを実現するため、この基本施策があるという書きぶりになっていないので、今あるものをばらまいているように感じられ、説得力がないように思う。市民がこれを見て、苫小牧市は今、何に力を入れており、市民生活がどう変わっていくのかなどが読み取れるような基本計画がいいと思う。

人口減少社会になり、税収も下がっていく、今までの右肩上がりではない時代になってきたときに、そういう取捨選択的な、優先順位をつけたようなやり方をしていかないと、今までやってる事業をとにかく継続してやりましょうみたいな感じでは、衰退の一途をたどると感じた。

あと、前回資料の中で、市民スポーツの推進、指導者の確保を育成するという項目

が第7次計画では削除になっているが、公立中学校の部活動の地域移行が進んでいく中で、これを取っていいのかなという気がした。

●会長

確かに各部署からそれぞれ上がってくる施策内容を全部並べたように思える。最初に質問のあった評価の問題も、自分たちで評価しているから、恐らくこのような形になったのだろうと、今意見を聞いて思った。

●Ａ委員

資料２−２で人口減少のシミュレーションがされている、その中で、２０４０年の人口、約１５万を維持するとなっている。人口は、出生率と社会増、それらを合わせたうえで１５万を維持するということでいいのか。

●事務局

想定人口については、第２期苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略の中にも規定してあるが、合計特殊出生率を段階的に１．８％まで引き上げるということを目標にしている。自然増だけでなく、移住や関係人口を増やす取組も総合戦略に記載してあり、それらの取組を通した社会増もあわせ、人口約１５万人を維持としている。

●Ａ委員

出生率の増加に向け子育て世代のサポートなどがあるが、現状、出産できるところが２施設、王子病院と市立病院だけになっている。今まであった市内の産科がなくなっている。そうなると、出生率が増えてきたときに、それに対応する必要がある。また、出生率が目標を下回る場合、出生率を上げる方向に力を入れていくのか。それとも企業誘致などで生産労働人口を増やしていくのか。どちらも大事だが、両方やるのは難しいと思うので、どちらかに傾斜をつけることも考慮すべき。

第６次で「医療体制の整備と充実」の中の「質の高い医療サービスの提供」とあるが、第７次では「高度で良質な医療の提供」と変わっている。この高度な医療とはどういうものを意味してるのかもう少しはっきりしてもらいたい。

第６次の５７ページ、医療体制の整備、充実の評価指標について、市民満足度６０％を目標としているが、非常に曖昧な数字だと思う。例えば医療自給率、平成２８年のデータでは苫小牧市の入院の９０％は市内で終わっており、外来は９７％となっている。この入院自給率を９５％まで上げるなど、具体的な数字の方がいいと提案する。

医療と介護の連携センターについて、医療と介護の連携はこれから非常に大事になってくる。連携センターが中心になり動いていく中で、機能や体制の充実のためＤＸ、ＩＣＴを取り入れることが必要と思う。その辺も計画に入れることを提案する。

●副会長

前回、この計画に反映していく具体的内容がこうであってほしいという話をしたが、第６次の６４ページ、「子育て支援の充実」の「子どもの教育・保育環境の整備」の中で、統合保育、特別支援教育の質の向上や幼保、幼小連携の環境整備に向けて、関係機関と連携を図りますとなっており、連携を図るというところでとどまっている。

現在、５歳児発達相談がなされていない中で、課題を抱えた子どもたちが、就学に向けて適正な支援を受けづらい環境にある。また、保育士の配置基準ということで、国の配置基準が半世紀以上変わっていない中で、苫小牧市も国の基準にほぼ倣っているような状態であり、保育士が個別の対応をしてあげることができないというような現状がある。

保育士不足の問題や、子供を取り巻く環境というのも、ここ数年で少子化に向けた対応がスタートされているような状況も見え、西側と東側のばらつきもかなりある。東側の待機児童はまだまだ多いという状況もあり、待機児童解消に向けての動きが進む中、第７次計画では、さらに先を見据えたものとなると思う。だからこそ「図ります」ではなく、「計画的に進めます」など具体的なものが見えてくるような動きを組み込んでもらいたい。詳しい内容はまた計画を立てる段階で検討してもらいたい。

現在、苫小牧市は保育料無償化をうたっている。３歳から５歳のお子さんの保育料は無料となるが、０歳から２歳児までの子どもは、無償化されておらず、あまり市民に知られていないと思う。子育て支援の充実とうたうからには、どの子も平等な保育が受けられるように、さらに、子供たちの給食費の無償化ということで、小学校でも検討していってもらいたいと思う。

●会長

非常に大事な意見がたくさん出たように思う。この委員会を引き受けるに当たって、苫小牧市の都市の魅力などがベースになり、形づくられていかなければならないと思っていた。

人間環境都市が理想の都市ということで、これをベースに具体的な施策に反映させていくことになるが、コンパクトシティの考えははずすことができないと思う。説明の仕方によっては、排除されると誤解してしまう住民、エリアがあるということを念頭に置いた上で、提言をしていく必要がある。誤解されずにもっと魅力ある都市を目指すと伝わるような素案が事務局のほうから出てきてほしいと思う。

将来を考えたときに、特にＩＴなど、いろいろなことがスピードアップして変化すると思う。町内会活動についても、回覧板で回すのではなく、スマホで情報を共有する、そういう時代がもう来てる。今後は、スマホがベースになり、意思、情報を共有していくようなまちづくりとなっていくと思う。

例えば公共交通では、今のバスをベースに想像するのではなく、例えばタクシーよ

り大きい車などいろいろな候補が出てくると思う。キャンピングカーを少し改造し利用するという考えもある。

今の現状だけをベースにしてもなかなか悲観的なものが多くなるので、ＩＴやゼロカーボンなど、そういういろいろなことが５年後、１０年後にどう進んでいるのかをイメージして、それを含めて魅力的な都市にする検討をしてほしい。

●Ｃ委員

観光を例として挙げるなら、観光の振興以外にも、国際観光リゾートの形成という、観光に関する部分が違うとこにある。物事が複雑化、細分化し、ジャンルをまたぐというのはごく当たり前となる中、担当部、担当課がこれだけきれいに分かれることは絶対あり得ない。縦割りを脱却し、組織をまたいだ連携が必要。

●会長

先ほども意見があったが、プロジェクトについて重点化した説明をしないと、なかなか難しい。各部署から上がってきたものをまとめるというよりは、くっつけてよいものにするというつくり方が必要。

ゼロカーボンも苫小牧が日本一の環境都市になる、ゼロカーボンに対応する都市になる、そのモデルエリアがあるというのは、すばらしいことだと思う。

●Ｈ委員

大学の活用について、苫小牧西部の高等教育を担う者として、苫小牧高専と協力しながら一つの核にしたいと思う。大学の教員や学生だけではなく、周辺の市民も取り込んで、市民も楽しめるような場所になるといい。図書館の開放や社会人教育の充実により知識を深めることで、生産性が上がる可能性もある。

留学生を受け入れる数を多くし、市民と国際交流を行うことも考えられる。徐々にだが苫小牧高専との協力が進み、講師の交換なども行っている。

防災面で、津波の一時避難所にもなっており、自然災害の福祉避難所にもなっているので、そういう機能でも活用できると思っている。

●会長

大学とまちづくりについては非常に成功している例も多いように思う。

●Ｈ委員

もう１点、経済面でいうと、大学は現在、韓国、台湾、インドネシア、モンゴルの大学と提携している。ダブルディグリーという向こうに留学して取得した単位が、こっちの単位にもなり、両方の卒業資格を持てるという制度がある。その交流の中で、市内企業が海外進出や海外に生産拠点を設ける、物流を考える、販路を求めるなどのときに、この制度が役に立つ可能性もあると思う。

●会長

国際化の一環として、人口が減っていく中で、外国人労働者に期待する必要性は増えてきていると思う、やり方は別として。国際色のある大学の機能がまちづくりには大いに関係してくると思う。

●Ｅ委員

新型コロナウイルスの今後の見通しについて、不安な時代にあるかと思う。大きく生活環境が変わる、社会環境が変わる、あるいは生活が変わった方が大勢いる。５年にわたる長期計画であったとしても、コロナによって変化した現況を捉えているということが、市民に分かるような形であればいいと思う。

●会長

意見等あれば、後日でも、事務局に出してもらえれば、次の案に検討されると思う。それでは、事務局から。

３　その他

●事務局

次回の開催について、次回は本日でた意見などをもとに作成した素案を示したうえで意見交換を考えている。

開催日は１０月中旬を考えているが、詳細などは改めて連絡する。

４　閉会